

# 東北南部・北陸向け「そらひびき」について



里のほほえみ そらひびき  
(比較)

秋田県育成地ほ場にて



そらひびき LD00-3309 サチユタカ 里のほほえみ

収量が高い米用品種（LD00-3309）と加工適性が高い日本品種（サチユタカ）との交配により育成。2024年に品種登録出願。

「そらひびき」は東北南部～北陸地域での栽培で、既存の品種と比較して2割以上の多収が見込まれる。

“空”に向かって倒れずに育ち、実った多くの莢（さや）が触れ合いカラカラと音が“響き”渡る様子をイメージし命名。



## 各地域の標準(比較)品種

標準栽培

山形県：リュウホウ

新潟県：里のほほえみ

狭畦栽培

石川県：里のほほえみ

# 「そらひびき」現地実証試験（2023）

## 生産者ほ場における現地実証試験成績

試験条件	品種名	成熟期 (月/日)	倒伏	主茎長 (cm)	子実重 (kg/10a)	標準 対比	百粒重 (g)	タンパク 質(%)
山形県	2023 そらひびき	10/8	無	44	259	125	24.7	45.7
鶴岡市	リュウホウ	9/27	微	54	207	100	33.5	44.9
石川県 (A地区)	2022 そらひびき	10/10	少	44	226	138	23.9	42.2
白山市	里のほほえみ	10/18	少	65	164	100	30.4	44.0
	2023 そらひびき	10/9	微	49	342	128	26.1	42.5
	里のほほえみ	10/23	少	61	268	100	38.1	45.1
(B地区)	2023 そらひびき	10/10	微	43	326	106	25.8	44.8
	里のほほえみ	10/25	微	65	306	100	37.3	45.3

狭畦  
栽培

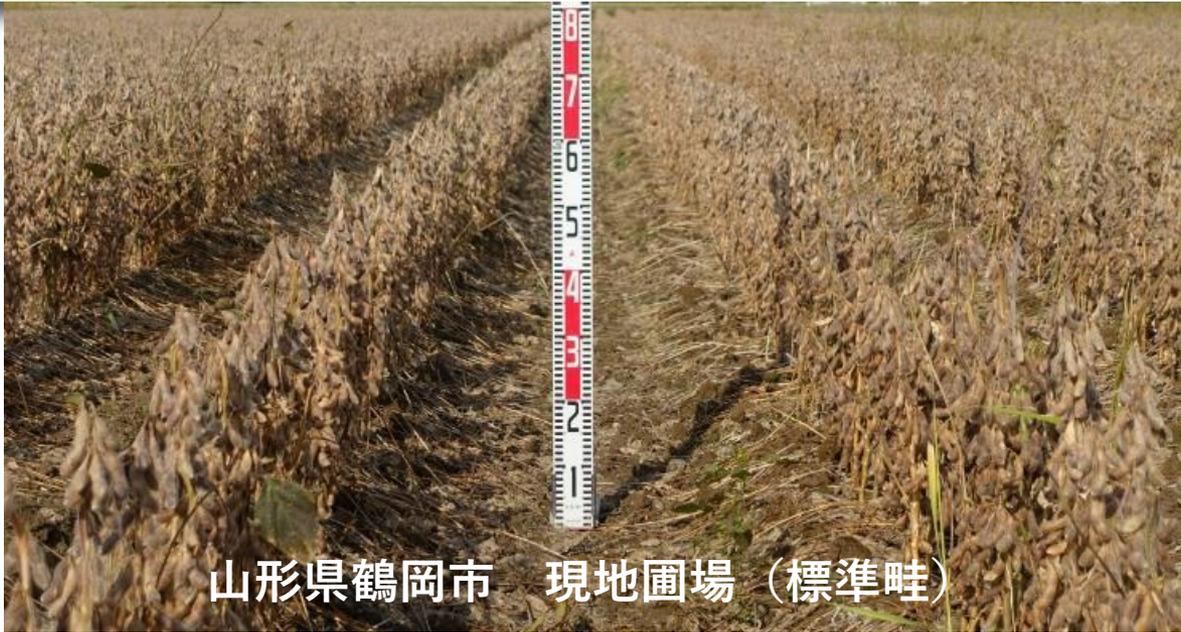
注) いずれの試験も実栽培規模（約30a）で、子実重はコンバイン収穫により評価した。

倒伏は 無、微、少、中、多、甚 の6段階にて評価した。

子実重の標準対比のうち、赤字で示したものは標準対比120%以上を示す。

- 普及品種「リュウホウ」「里のほほえみ」と比較して多収。
- 草丈が低く、倒伏が少ない。莢がはじけにくい。
- 狭畦（倍密度）で 倒伏が少なく多収。
- 熟期は、リュウホウより遅く、里のほほえみより早い。

# 「そらひびき」の現地実証試験 成熟期



山形県鶴岡市 現地圃場（標準畦）



石川県白山市 現地圃場（狭畦）

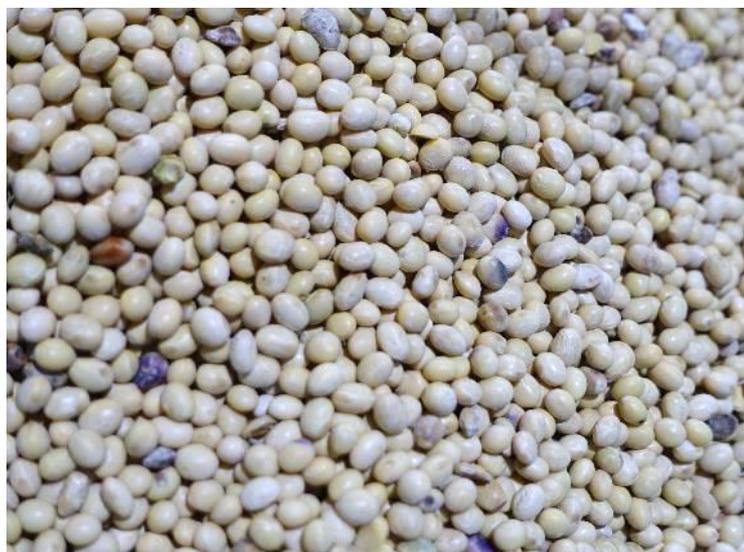
# 「そらひびき」の草姿（山形県鶴岡市）



リュウホウ      そらひびき

「そらひびき」の主莖長は「リュウホウ」より短い。

# 「そらひびき」の収穫のようす（鶴岡市）



# 「そらひびき」の特性 加工適性

品種名	タンパク質 含有率 (%)	豆乳 抽出率 (%)	豆腐の 破断強度 (g/cm <sup>2</sup> )
そらひびき	42.1	78.8	70.5
フクユタカ	43.4	79.9	73.8



「そらひびき」  
の豆腐

- 育成地および現地試験生産物の第三者検査機関による豆腐加工試験で、豆腐適性が優れる「フクユタカ」と同等と評価。

# 「そらひびき」の加工品の試作・試食



豆腐百景 様  
に試作を依頼

令和6年度農研機構  
東北農業研究センター  
大仙研究拠点一般公開  
にて



## 来場者感想

- 豆腐は、甘味を感じる。青臭み、豆臭さが少なくおいしい。等